

学期レポート 2010年夏学期

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業
第4期生 武田 太一

夏学期クラスについて

6月21日から7月29日まで6週間かけて、夏学期クラスが開講された。英語の勉強を継続するためにも、英語クラスを受講する予定であったが、開講している英語クラスが少ない上に教授に対する評価も良くないため他のクラスを受講することに決めた。熟考した結果、今回は心理学の1クラスのみ受講することにした。夏学期はほとんどのクラスがニューアークキャンパスでの開講となっている。これまでフリーモントにあるメインキャンパスで受講していたのだが、ニューアークキャンパスでクラスを受ける機会がなかったため、これまでとは違った雰囲気を受講することが出来た。ニューアークキャンパスは新しく出来たキャンパスであり、何号館もあるメインキャンパスとは違って校舎が1つだけではあるが校舎自体が広く、また清潔でもあるので勉強しやすい環境だと感慨を受けた。

Psychology101 心理学入門クラス

日本でも心理学に関連する講義(発達心理学、加齢心理学、教育心理学など)を受講したことがあるのだが、改めて復習したいという思いと、心理学に関する専門用語の英語を勉強したいということから心理学を受講した。

夏学期は月曜から木曜まで毎日開講され、難解な単語が毎日のように出てくるため、それらを覚えるのに必死であった。日本語だとすぐに理解できても、英語になると単語が出るたびに辞書を作成するのも面倒であるため、自ら単語帳を作成してクラス中にすぐ確認できるようにするなど工夫をしてきた。教授の話は面白く、毎回飽きることがなかった。実際に行われた実験のビデオを流すなど分かりやすい講義でもあった。ほぼ毎週テストが行われたのだが、かなり難しかった。テストは選択肢から1つの解答を選ぶ選択式と、与えられた問題文に対して1つのエッセイを書くという形式である。心理学用語をしっかりと覚えていけば解ける問題であるが、その週に出たたくさんの専門用語を短期間で覚えるのは至難の業である。

勉強していく上で、テストを受けた後に結果が返ってきたときに、どの問題が正解/不正解なのかが分かれば、誤った部分を復習して覚えていくという方法が考えられる。しかしこの講義ではテストの点数が返ってくるのみで、自分の回答の正誤が分からないため、復習が全く出来なかったのが悔やまれる。

アメリカ手話クラス フィールドワーク

実は先の春学期で受講したフィールドワークは学期中に合計108時間ボランティアを行う必要があるのだが、自分はその時間を満たすことが出来なかったため、夏学期も継続してボランティア活動を行うことになった。フリーモントろう学校は既に夏季休暇に入っているため、教授と相談した結果、この夏学期に開講されているエジプト留学生向けの特別プログラムをお手伝いさせていただくことで残り時間を消化した。

自分と同時期にエジプトから8人のろう・難聴留学生がいるのだが、この夏学期は開講しているクラスが少ないため、彼らに適するクラスがない。そのため、デフセンターが特別プログラムを組み、3人の教授が交代で彼らの指導にあたった。このプログラムの目的は、アメリカ手話・英語・職業訓練の3つが中心となっている。自分は特に英語指導のサポートに回った。担当教授と相談しながらプリントやパワーポイントを作成して、彼らに様々な英語を教えていき、逆に自分もまた彼らからエジプト文化やろう・難聴者に関わる問題を知ることができ、良い経験となった。

大学院への合格

春学期が終了しても出願先からなかなか良い結果がもらえず、夏学期終了後の生活はどうなるのか不安にな

っていた。夏学期が始まる直前になってようやく大学院から合格通知をいただくことができ、安堵した。秋学期からの進学先はボストン大学教育学部のろう教育修士課程（EdM program of education of the Deaf in the Boston University School of Education）に決定し、この夏学期と並行して入学手続きや新住居探しなどに追われることになった。忙しい日々ではあったが、先に見える将来に向けての準備は楽しいものであった。

東海岸への引越し

夏学期が終わると同時にフリーモントにある家を出る必要があり、夏学期終了時まで引越し準備に終わった。荷物は重いものを中心にボストンに先に送り、残りは自分の車に積み上げた。7月31日より約2週間かけて、友人らと共にアメリカドライブ横断に出発する。フリーモントで過ごした1年間は疾風のごとく早く過ぎていったが、この地で出逢った人々や得られた経験を糧に、ボストンでの新しい生活を堪能していきたい。